

夫を看取った妻

う様の語り

余命は病院であと一、二か月といわれ、最期は家
で思っていたので決心した。看取りの期間は四十
日間。本人も余命を知っていた。

心臓病、糖尿病、脳梗塞等、別の病気で5年ほど
入院を繰り返していた。リハビリをしていたが体
調を崩し、三か月入院し、退院せざるを得ず、連れ
て帰ったところで検査を受けると肺がんのステージ
四と診断された。その時は看護師をしている姪が同
居していたが、在宅でもやることは同じといわれ、
本人の意志もあって在宅での看取りとなった。

自宅は十六年前に夫が建てた高齢者住宅、これが
できた三年後に介護保険ができた。当時としては珍
しく、話題になって、新聞等で紹介された。二〇〇
〇年に母を2階に造った介護室で三か月ほど介護し
たことがある。その経験があったために主人自身も
在宅死を希望し、私もここで看取ろうと思った。入
居者に関しては最期までまだ誰も看取ったことはな
いが、これまでの母や夫の看取り経験があるため、
入居者の、同居していない家族が、付き添い等で協
力してくれば、今後は入居者の看取りもできるか
もしれない。なくなった夫は看取りもできる施設を
という考えだった。

夫の家族介護者は子供三人（同居している長男四
八歳、次女三九歳、三女二七歳）や、同居していた
看護師の姪、市内在住の夫の兄弟二人が援助してく
れた。ケアマネージャーが最初からかわってくれ
て、看取りのスタート時は介護度は二、最期は四く
らいとなったが区分変更しないまま対応してくれた。
三分の二が医療保険、三分の一が介護保険でまかな
い、訪問診療と訪問看護、訪問リハビリを利用した。

生活の援助のために個人的にヘルパーさんをお願い
した。自宅がこのような施設なので、普段の仕事を
別の人に代わってもらうこともなく、いつもどおり
の日常生活を続けながら看取ることができた。リビ
ングのすぐそこに部屋があるので、病院と違い様子
をよく見ることが出来た。車の免許がないので入院
していた時は仕事を人に頼み、タクシーで出かけな
ければならず、在宅の看取りはその点が大変楽であ
った。何より在宅なら、夫といろいろな話を話す
ことができる。死後の高齢者施設の経営のことを大
筋だけでも夫に考えてもらわねばならず、聞いてお
くこと、決断しておいてもらわねばならないことも
多かったので、在宅で良かった。経営している施設
の名義のことや、経営のことなどの手続き等で大変
忙しくなり、終末期なのにゆっくり出来なかった。
看護師さんからは、行きたいところはあるかと聞
かれたが、生活音を聞いているだけで本人は十分だ
と言っていた。リビングに座り、お茶を飲みながら
入居者の様子を気にすることで本人は満足していた。
見送る部屋はリビングの奥の管理室にした。ベッド
をいれ、自分は長いすを入れてその横で寝た。

もともと建物はバリアフリーなのでリフォームは
いらなかった。介護用品は保険でレンタルができた
ため、個人的に用意したものは尿瓶程度。ただそれ
までなかったテレビを管理人室用にも購入した。

途中痛みで気持ちを吐き出すことはあったが最後
は穏やかだった。夫はシャンソンが好きだったが、
在宅中でもほとんど聞く時間はなく、泣いている暇
もなかった。兄弟や入信しているキリスト教会の方
たちが代わる代わる来てくれたので、皆と昔話をし
て過ごした。墓は教会の墓に入ることになってお
り、葬式は家族葬でしてほしいと言われたが、ちゃ
んとすべきであると私が説得し、キリスト教のやり
方で、教会で挙げることにした。人の死に関しては、
教会で話を日ごろから聞いていたので「安心してい
きなさい」といいながら看取った。終末期医療はい
らないと考えていたが、疼痛ケアは行い、座薬等で、

家族でケアした。座薬は入居している他の人にもし
ていたので慣れていたが、麻薬系のパッチは危険で
難しかったため、看護師の姪にしてみたらいい。
自分一人の時も、何が起きてもしかたないという時
期だったので不安はなかった。臨死期は朝の頃、
アイスクリーム食べると聞くと、食べると言ったの
で食べさせた。最期の会話は「アイスクリームおい
しかった」という言葉である。兄弟が集まり二時頃
亡くなった。息の仕方が変わってきたので、もう死
ぬのだなと思った。母のときも同様に皆が集まって
見送ったがその時と同じだった。状況を先生に伝え
ると静かに見送るよう言われた。先生には亡くなっ
てから連絡した。

在宅死はちゃんと責任をもってきちつと看る人が
一人でもいれば大丈夫。皆その場になれていないか
ら恐ろしく感じてしまうのだと思う。でも死は恐ろ
しくない。

母のときと夫のときで、介護保険制度の有無の違
いはあったが、利用できるサポートに変化はなかつ
た。ただ今回は良いケアマネージャーさんに出会え
たことが肝心だったと思う。

最期の時は、皆で笑いあいながら様子を見守った。
先生からは「理想的な看取り」といわれた。もう何
年もたったような気がするが、まだ去年のことなの
だと驚いている。

自分が同じ立場になっても、在宅での自然死がい
いが、今後のことなのでわからない。